

パオちゃん's EYE

2025年1月1日 発行 No.94

トゲだらけの木「クストイゲ」

自然史博物館の近くにある鶴形山（つるがたやま）は、江戸時代に周囲が干拓されるまでは、浅い海に浮かぶ島でした。鶴形山が島でなくなってから400年ほどが経っていますが、主に海岸近くに生育する植物が複数種自生しており、島の時代からの生き残り（ただし、当時生えていた個体ではなく、その子孫）ではないかと考えられています。

島の時代からの生き残りかもしれない植物の一つがクストイゲ *Xylosma congesta* です。クストイゲはヤナギ科クストイゲ属の常緑広葉樹で、樹高は最大で10 m（ときに15 m）ほどになります。以前はイイギリ科というグループに分類されていましたが、DNAの解析結果によってイイギリ科は解体され、現在はヤナギ科に分類されています。

クストイゲの枝や幹にはトゲが生えており、特に若木で発達します。このトゲは枝が変化したもので、草食動物に対する防御の役割があると考えられています。クストイゲという種名もトゲに由来しており、「イゲ」は九州などの方言でトゲを指す語です。なお、「クスト」はハリネズミの古い呼び名に由来するなどの説がありますが、はっきりしないようです。

鶴形山でクストイゲが生えているのは、おもに倉敷美観地区に面する南側斜面で、阿智神社の近くなどで観察できます。また、倉敷市を含む岡山県各地において、海岸近くの森や神社境内などに生えています。変わった姿の木ですので、ぜひ探してみてください。



若木の枝に生えるトゲ



幹に生えるトゲ。枝分かかれしている

鐵 慎太郎(植物担当)

パオちゃんズアイEYEに関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp



「パオちゃん's EYE」
は博物館ホームページでカラーで見られるよ！

